

広島女学院大学

卒業生アンケート報告書(2021 年度)

IR委員会

広島女学院大学では、卒業予定学生を対象とした「卒業生アンケート」調査を毎年実施している。本調査は、4年間の学生生活を振り返り、本学の教育を通じて得られた成長実感、満足感について測定するとともに、教育課程、教育方法、施設・設備等における課題を明確にすることで今後の教育活動を改善していくための指標を得ることを目的としている。

本調査結果は内部質保証委員会に報告し、改善すべき課題の抽出を行い、具体的な改善策について検討することになっている。2021 年度の調査結果については、6 月 27 日の内部質保証委員会に報告し教育改善に向けて検討した後、これを公表することとなったのでここに掲載する。

〔調査結果の概要〕

1. 調査時期、対象者および回答率

調査時期:2022 年 1 月 17 日～2022 年 3 月 13 日

対象者および回答率は表 1 のとおりであった。回答率は 80%以上を目標として呼びかけを行ったが、78%に留まった。

2. 成長実感について

本学が 2018 年度に改定したディプロマ・ポリシーにおいては、達成すべき教育目標を「ぶれない個」、「多様性」、「寛容と協働」の3つのキーワードで示している。

DP1(ぶれない個)

豊かな教養と専門的知識を通して、冷静な判断力と決断力を兼ね備えた「ぶれない個」を形成し、自己のライフキャリアの確立をめざすことができる。

DP2(多様性)

自己と他者の多様な価値観・生き方を発見し、責任を持って受容し、他者との共生を実現することができる。

DP3(寛容と協働)

寛容の精神をもって他者を受容し、自己の女性としての特性を活かしながら、他者と協働し、地域社会および国際社会に貢献できる。

改組後の最初の卒業生に対して行われた本調査では、まず総合的な成長実感を質問 4「広島女学院大学に入学してから、あなたはどの程度成長したという実感がありますか？」で捉え、上述した3つのキーワードにおける成長実感については、質問 5「4年間の大学生活を通して『ぶれない個』（冷静な判断力と決断力を持った自分）をつくることができたと思いますか？」（ぶれない個）、質問 6「4年間の大学生活を通して、他の人の価値観や多様性を理解できるようになったと思いますか？」（多様性）、質問 7「大学卒業後、他の人と協力しながら地域社会や国際社会に貢献したいと思えますか？」（寛容と協働）の3項目で捉えることにしている。

総合的な成長実感（質問 4）については、成長したという割合（「1 とても成長したと思う」「2 ある程度成長したと思う」を合わせた回答率）が大学全体で 86.2%となっており、9割近い卒業生が成長したという実感をもっていることがわかる（2020年度の 85.7%より増加。ただし内訳として「1 とても成長したと思う」の割合は 5%減）。特に、児童教育学科は 92.5%、管理栄養学科は 89.6%、生活デザイン学科は 89.4%と、人間生活学部の三学科ではいずれも高い割合の学生が成長実感を得たと回答している。中でも生活デザイン学科は前年度的生活デザイン・建築学科における 76.7%より大きく向上しており、カリキュラム改善が学生の成長実感の向上につながったことが推察される。人文学部の国際英語学科（76.4%）と日本文化学科（78.8%）では人間生活学部より相対的に低い割合となっているとはいえ、8割近い卒業生が成長実感を得たと答えている。

DPの3つのキーワードに関する成長実感をみると、成長したという割合は、全体では「ぶれない個」（質問 5）が 75.5%、「多様性」（質問 6）が 90.7%、「寛容と協働」（質問 7）が 82.4%となっている。「多様性」は昨年度同様 9割を超える学生が成長実感を得たと答え、「寛容と協働」については昨年度の 75.9%より大きく向上した。キリスト教主義に基づく人格教育を建学の精神とする本学では、毎週実施される「キリスト教の時間」や「木曜チャペル」において学内外から様々な分野で活躍する方々を講師として招くことで多様な考え方に触れることができる。初年次におけるこのような経験が、自己と他者の多様な価値観・生き方を受容する資質の育成に向けての基礎となり、専門課程において取り組む学びにおける大きな成長につながったと考えられる。

また、これらの設問と別個に設けた学生の自由記述には、コロナ禍による様々な制限を受けつつも、フィールドワーク、実験・実習、ボランティア活動に取り組むことができたことへの評価が記されており、これらの経験を通して「多様性」や「寛容と協働」の理解が育まれたことが伺われる。これをふまえると、全学ならびに各学科において今後さらに地域社会・国際社会との連携を強化していくことで、より大きく成長実感を向上させていくことが期待できる。

以上のように、成長実感を「とても成長したと思う」「ある程度成長したと思う」を合わせた回答率を指標として捉えた場合、大多数の学生が卒業時に「成長した」という実感をもっていると判断でき、2018年度改組は高い成果をもたらしたと考えられる。しかし、「とても成長したと思う」の回答が占める割合はまだ十分に高いとはいえないので、今後さらに教育課程及び教育における諸活動を工夫・改善することで成長実感を高めていく必要がある。

3. 満足度について

質問3「広島女学院大学に入学し在籍したことに、あなたはどの程度満足していますか？」の回答率(「1 とても満足している」「2 ある程度満足している」を合わせた回答率)を大学に対する総合的な満足度の指標としてとらえると、大学全体における満足度の割合は83.8%であり昨年度の82.3%よりやや向上している。中でも生活デザイン学科は90.9%と前年度の生活デザイン・建築学科における74.4%より大きく向上している。全学で不満足と回答した割合(「4 あまり満足していない」「5 まったく満足していない」を合わせた回答率)はわずか5.5%であった。総合的にみると、本学に対する卒業生の満足度は高いと判断されるが、「とても満足している」の割合は34.1%にとどまっているので、今後さらに改善に向けて努力していく必要がある。

質問8から質問26では、個別の事項19項目について満足度をたずねている。全体における満足度の割合が80%を越える項目は、「専門的な知識が身につく」(83.0%)、「自分で考える力が身につく」(81.3%)、「少人数・ゼミ形式の授業が充実している」(85.8%)、「先生が熱心である」(81.9%)、「先生と学生の距離が近い」(83.0%)の5項目であった。これらの評価に加え、「教育方針や校風に魅力がある」(76.9%・昨年度72.5%)への評価が向上していることや、また前述のようにディプロマ・ポリシーに沿って学生が成長を実感できていることは、コロナ禍における遠隔授業や登校制限などの様々な制約下で教育の質の維持・向上に向けて様々な模索した取り組みが、学生に高い評価を受けていると見ることができる。

また、「討論・参加形式の授業が受けられる」(69.4%・昨年度71.1%)、「地域の人や実際の社会と連携する授業やインターンシップが多い」(57.3%・昨年度51.0%)の満足度は高くないが、コロナ禍での様々な活動制限を考慮にいたした場合、学生に一定の評価を受けていると見ることができる。

「カリキュラムにキャリア教育があり、将来のキャリアについて考える機会がある」(77.1%・昨年度71.6%)が向上したことはライフキャリア教育を軸としたカリキュラム改善の成果とみることができるが、一方で「幅広い知識・教養が身につく」(77.2%・昨年度82.4%)への評価が下がったことは、ライフキャリアを「社会で活躍して報酬を得る仕事だけでなく、結婚、転勤、出産・育児、親の介護など、生涯のあらゆるステージを『キャリア』ととらえ、それを豊かにし、自ら切り拓く力を身につけていくこと」(本学webサイトより)と捉えることに向けて、ライフキャリア教育にさらなる改善の余地があることを示していると思われる。これらの課題はあるものの、概ね教学面では本学の教育が学則1条に謳う目的(「広島女学院大学は、キリスト教を教育の基盤とし、女性の生涯を支える高度の教養を授け、専門の学術を教授研究することにより、真理と平和を追求し、世界と地域の人々に仕えるゆたかな人格の育成を目的とする。」)において一定の成果を挙げ、卒業生から高い満足度をもって支持を受けているといつてよいであろう。

また学生生活の面においても「学生課、教務課、キャリアセンターなど学生へのサービスが充実している」(79.5%・昨年度69.2%)がコロナ禍の状況において大きく向上したことは、事務部門においても学生本位の姿勢と取り組みが万難を排して徹底されたことに対する高評価として、大きな意義を持つと考えられる。「クラブ・サークル活動が楽しめる」(41.5%・昨年度46.4%)、「ボランティア活動が充実している」(55.1%・昨年度65.4%)と「あやめ祭などの大学のイベントが充実している」

(43.6%・昨年度 54.2%)への評価は低く留まったが、自由記述欄には肯定的な評価も散見された。

施設・設備面では、「研究・実習施設、パソコン・インターネット等の情報設備が充実している」(69.3%・昨年度 65.2%)、「食堂やトイレなどの生活施設が充実している」(62.5%・昨年度 60.8%)はいずれも高い評価とまではいえないが向上していることについて、wi-fi 設備の増強やトイレの改修などが評価を受けていると考えることができる。自由記述欄には食堂のメニューや開店時間、売店(コンビニ)の品揃えなどへの改善要望が目立った。

「国際感覚や語学力が身につく」が 50%を下回ったことに関して(43.8%・昨年度 42.4%)、初年次の基礎英語におけるネイティブ教員による指導や、学内の修学支援部門であるアカデミック・サポートセンター(ASC)の多彩な課外プログラムなどの提供が行われているが、卒業年次における実感にはつながっていないようである。

本学は 2018 年度に全学改組を実施し、全学のディプロマ・ポリシーもこの改組を契機として策定された。今回の調査は 2018 年度改組後の最初の卒業生を対象とした調査となったが、既述の通り多くの観点(項目)において高い成果を示す結果となった。一方、一部の項目においては改善の余地があることも明らかになった。これらがコロナ禍に由来する課題であるのか、教学上・組織上・設備上の要改善点を示しているのか、慎重に見極めながら、さらに高い教育効果と卒業生満足度を目指して改善を続けていく必要がある。

2021年度卒業生アンケート結果

1. 実施時期

■ 2022年1月17日～2022年3月13日

2. 対象者および回答率

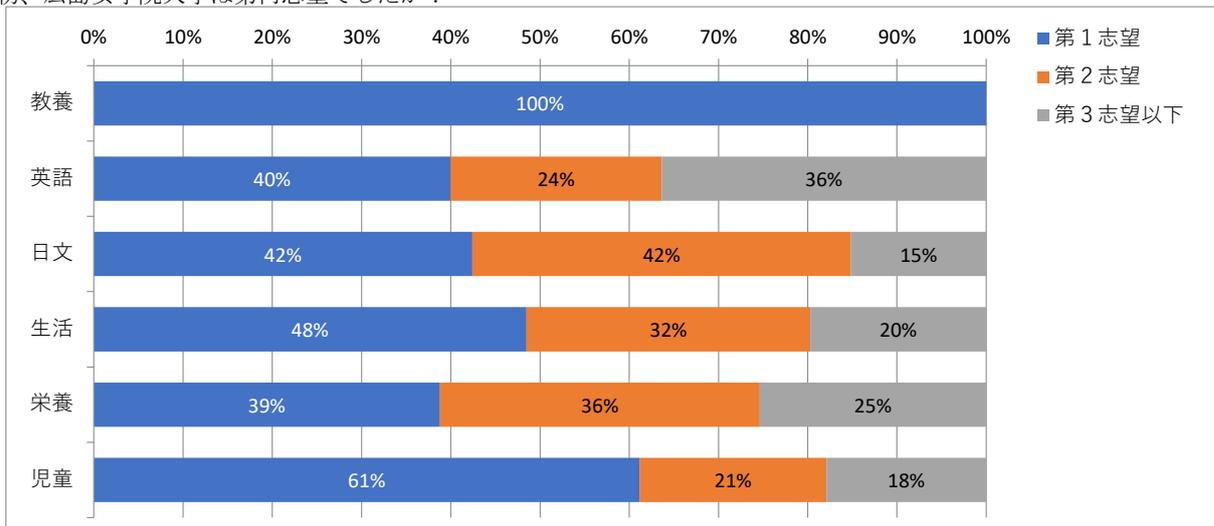
■ 学部4年生（2022年3月に卒業しない者も含む）

学部	学科	回答数	対象者	回答率 (%)
国際教養学部	国際教養学科	2	6	33.3
人文学部	国際英語学科	55	71	77.5
	日本文化学科	33	42	78.6
人間生活学部	生活デザイン学科	66	90	73.3
	管理栄養学科	67	83	80.7
	児童教育学科	67	82	81.7
合計		290	374	77.5

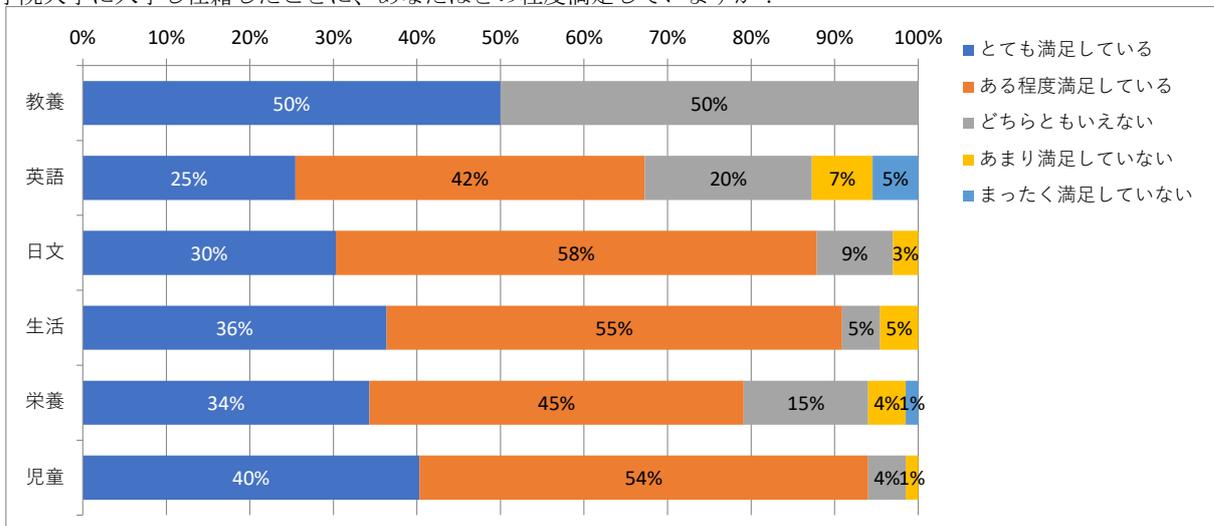
表1 対象者および回答率

3. 質問内容および回答結果

質問2 入学当初、広島女学院大学は第何志望でしたか？

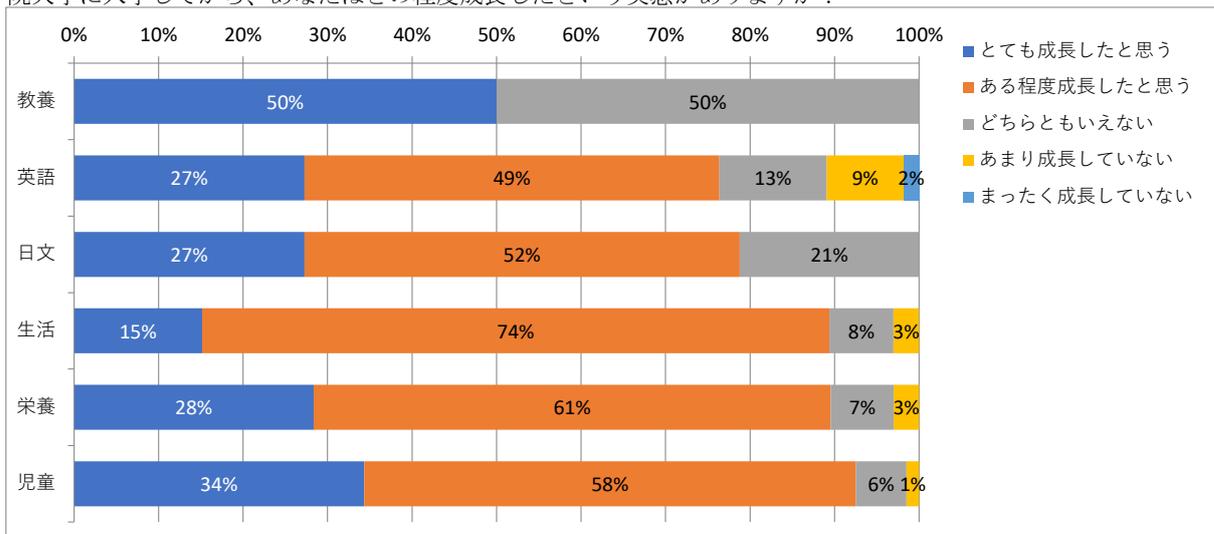


質問3 広島女学院大学に入学し在籍したことに、あなたはどの程度満足していますか？



2021年度卒業生アンケート結果

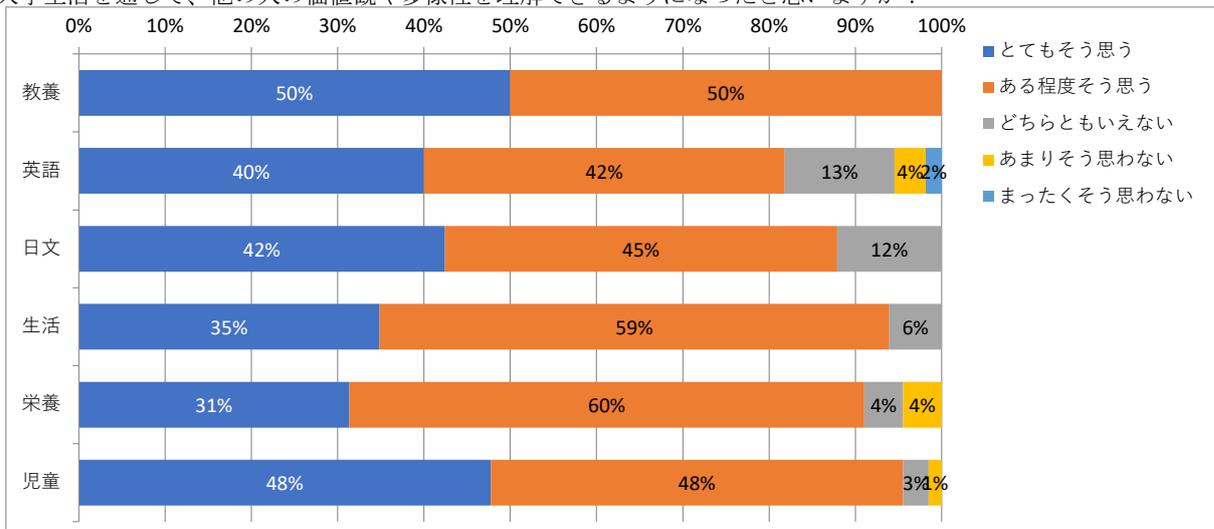
質問4 広島女学院大学に入学してから、あなたはどの程度成長したという実感がありますか？



質問5 4年間の大学生活を通して「ぶれない個」（冷静な判断力と決断力を持った自分）をつくりだすことができたと思いますか？

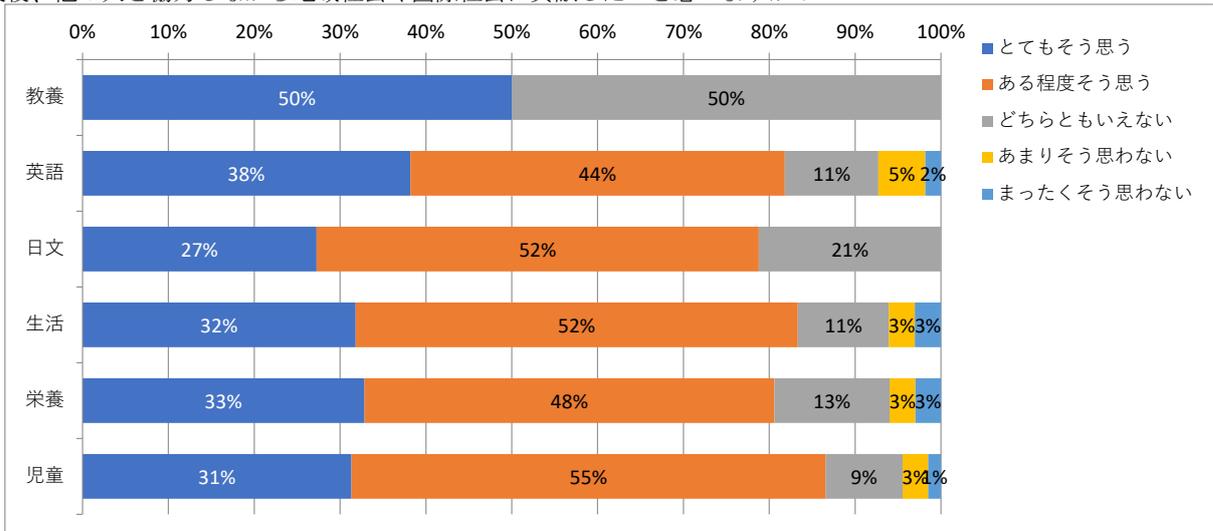


質問6 4年間の大学生活を通して、他の人の価値観や多様性を理解できるようになったと思いますか？



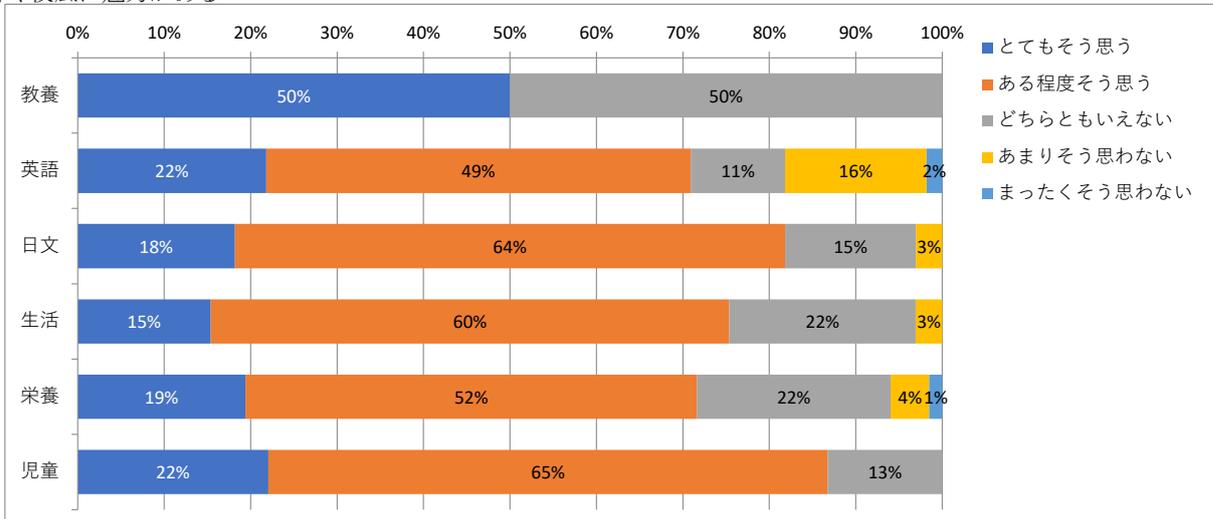
2021年度卒業生アンケート結果

質問7 大学卒業後、他の人と協力しながら地域社会や国際社会に貢献したいと思いますか？

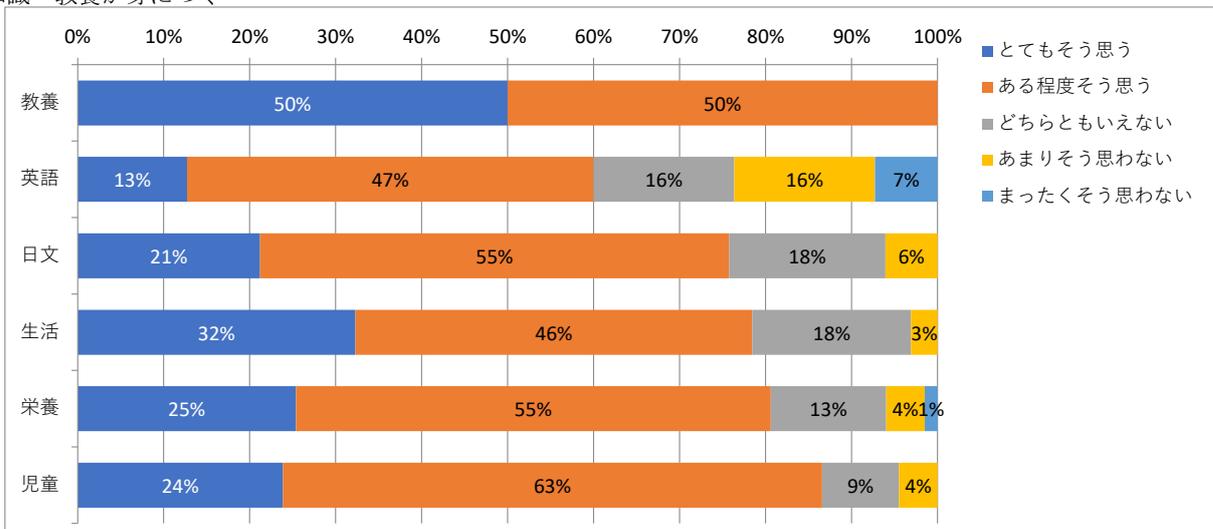


学生生活を振り返って以下の点についてどの程度満足していますか？

質問8 教育方針や校風に魅力がある

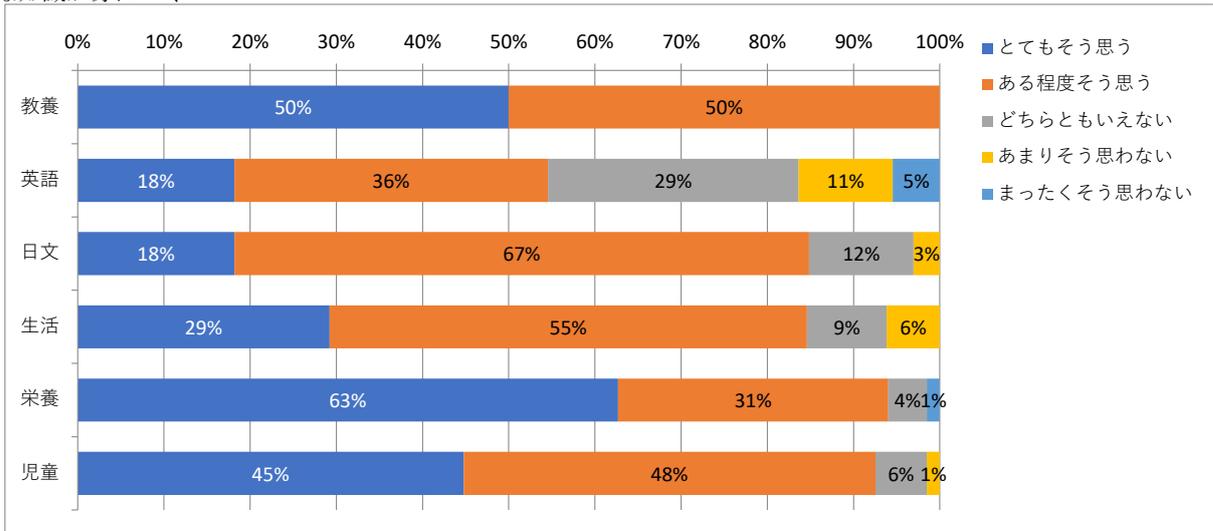


質問9 幅広い知識・教養が身につく

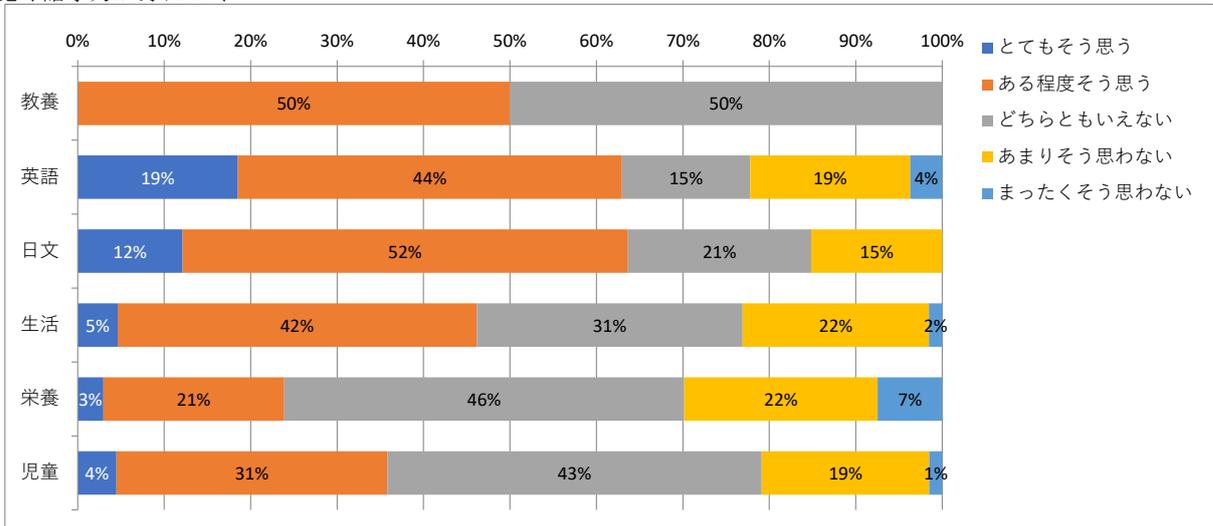


2021年度卒業生アンケート結果

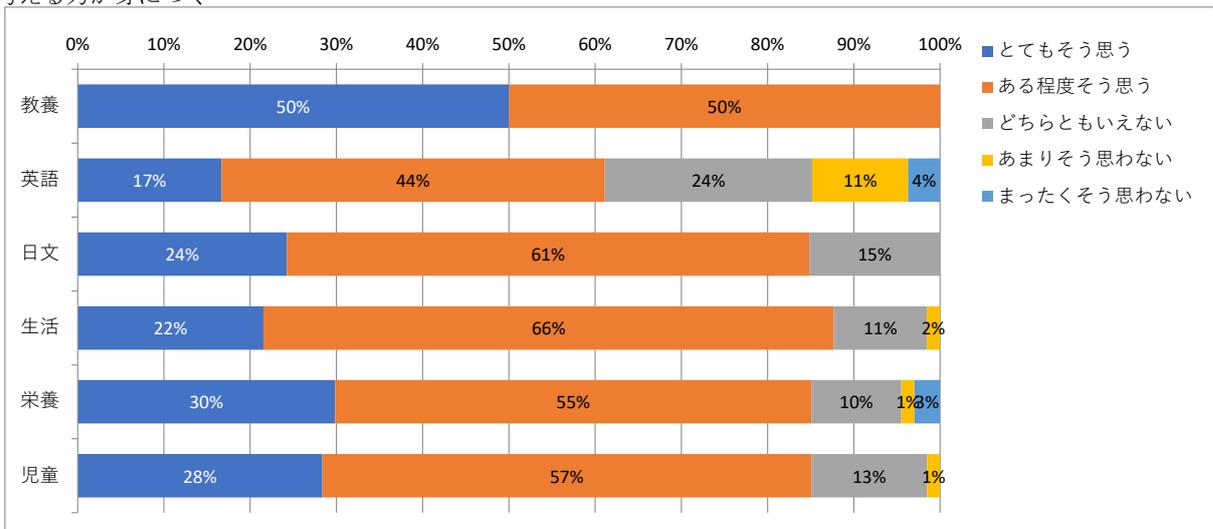
質問10 専門的な知識が身につく



質問11 国際感覚や語学力が身につく

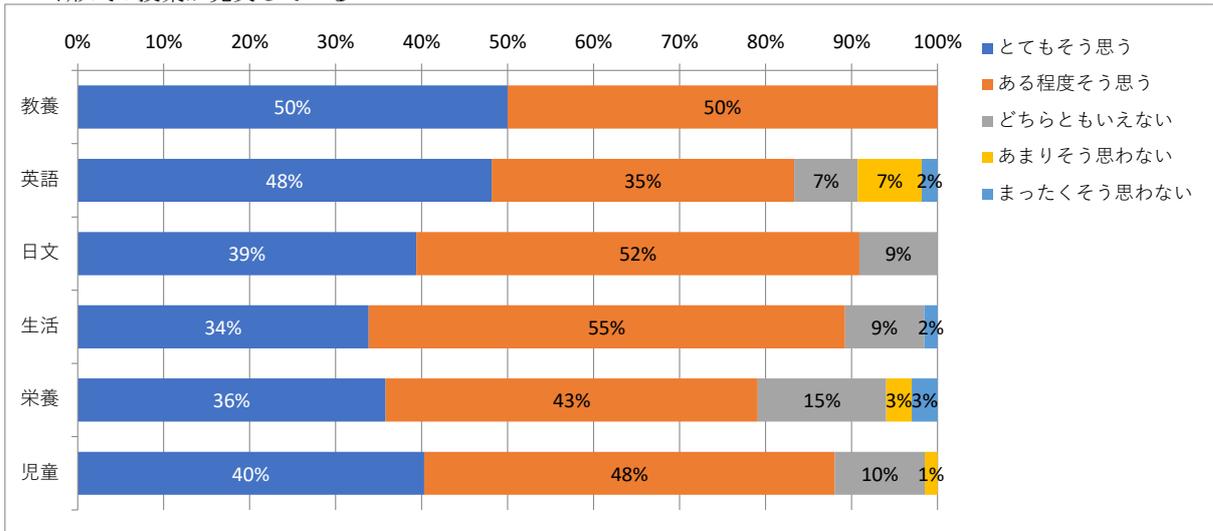


質問12 自分で考える力が身につく

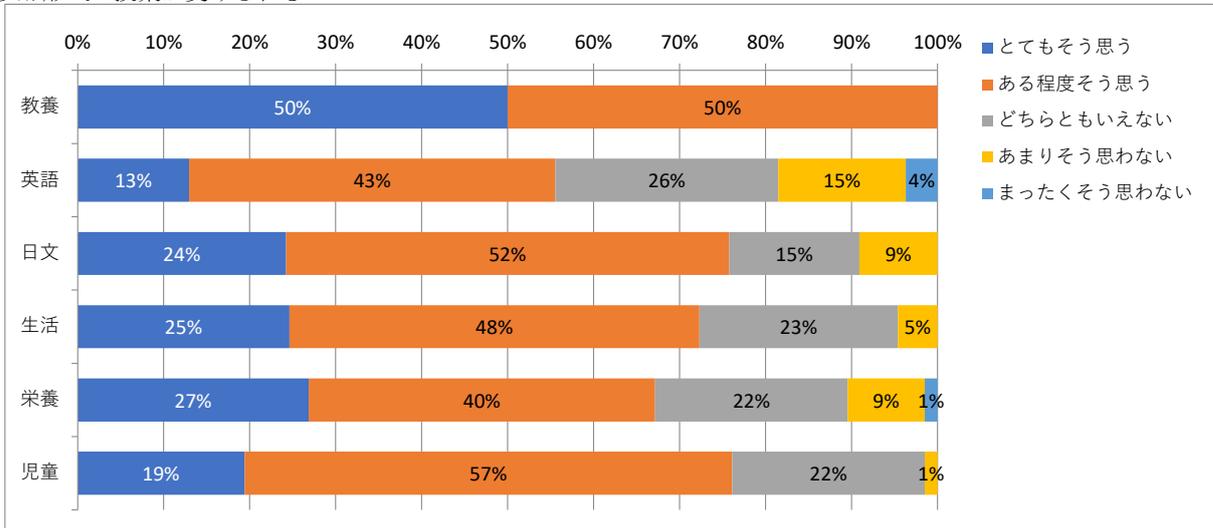


2021年度卒業生アンケート結果

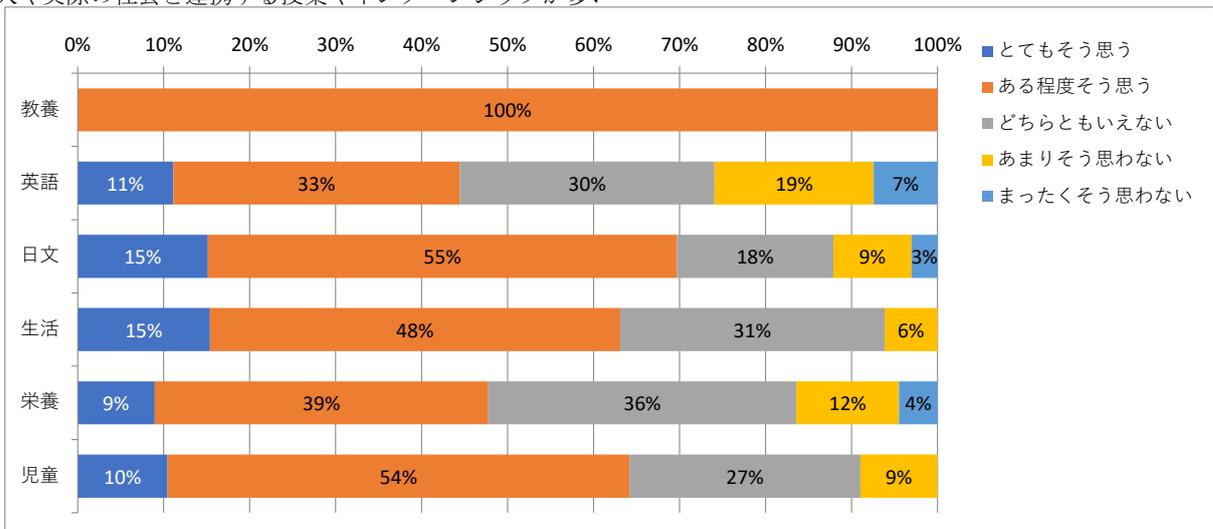
質問13 少人数・ゼミ形式の授業が充実している



質問14 討論・参加形式の授業が受けられる

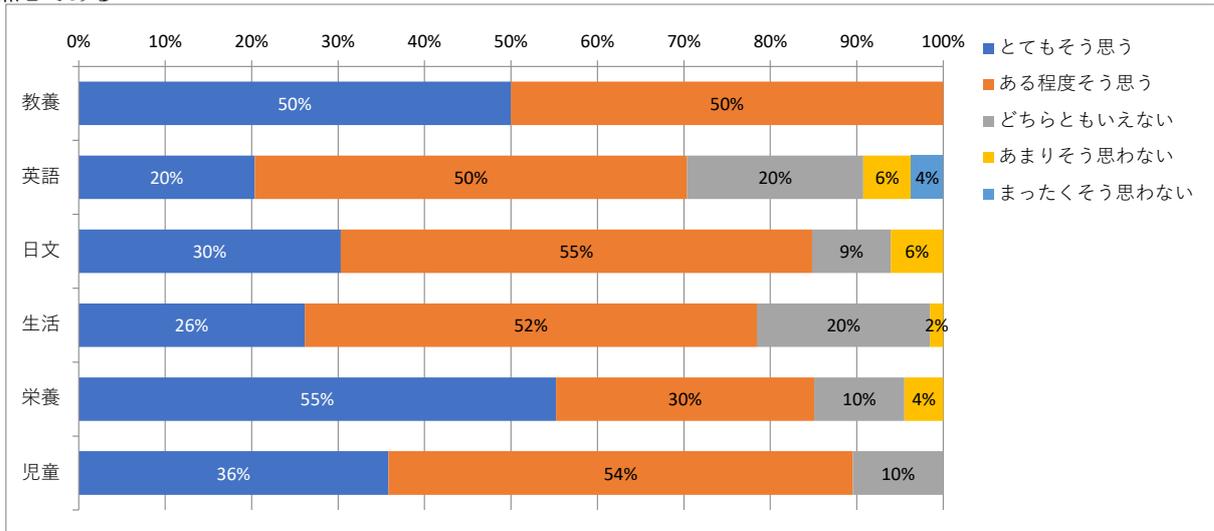


質問15 地域の人や実際の社会と連携する授業やインターンシップが多い

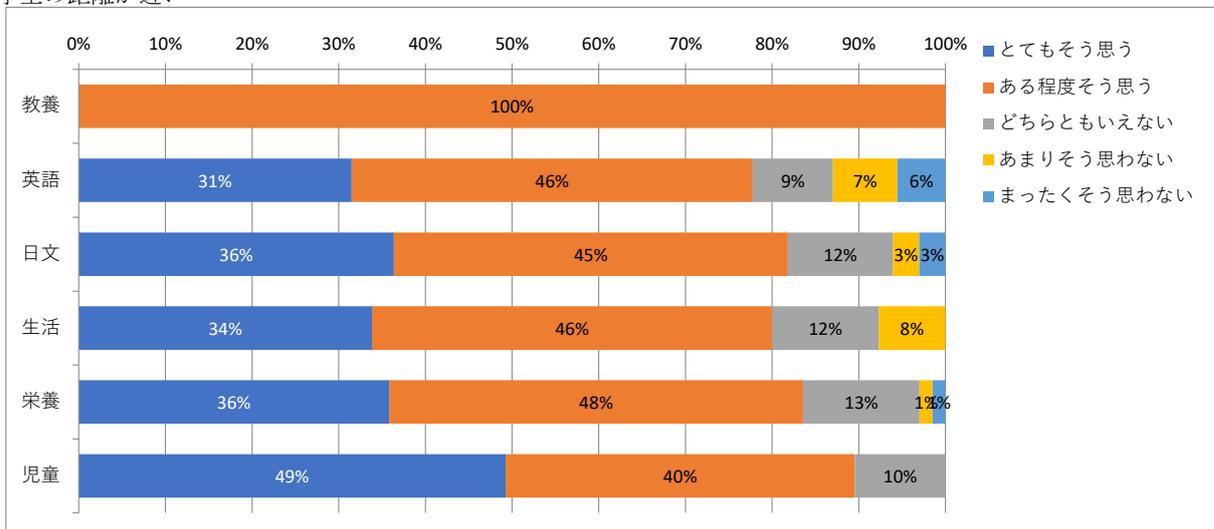


2021年度卒業生アンケート結果

質問16 先生が熱心である



質問17 先生と学生の距離が近い

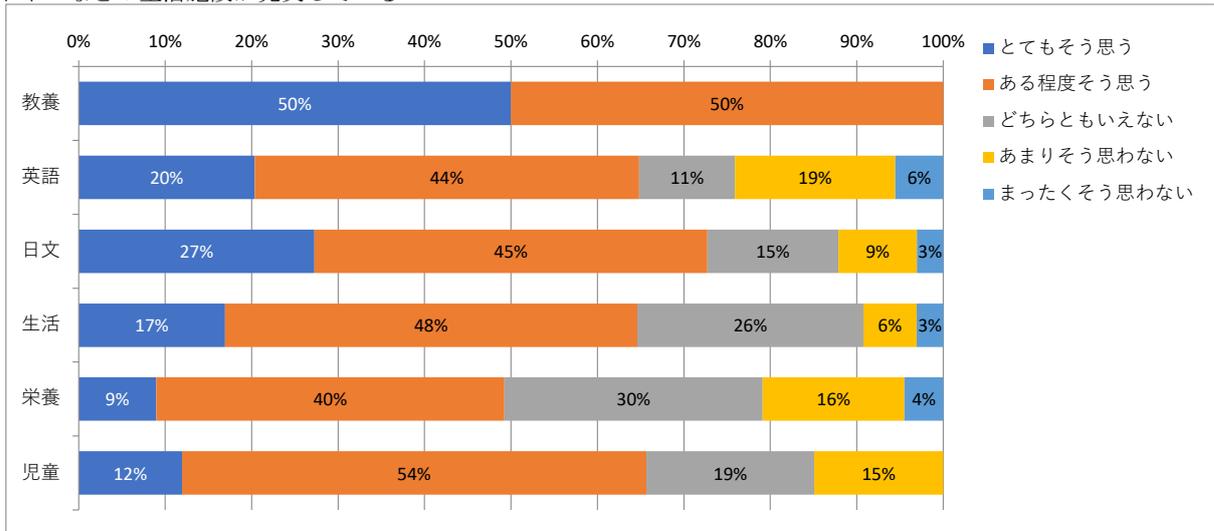


質問18 研究・実習施設、パソコン・インターネット等の情報設備が充実している

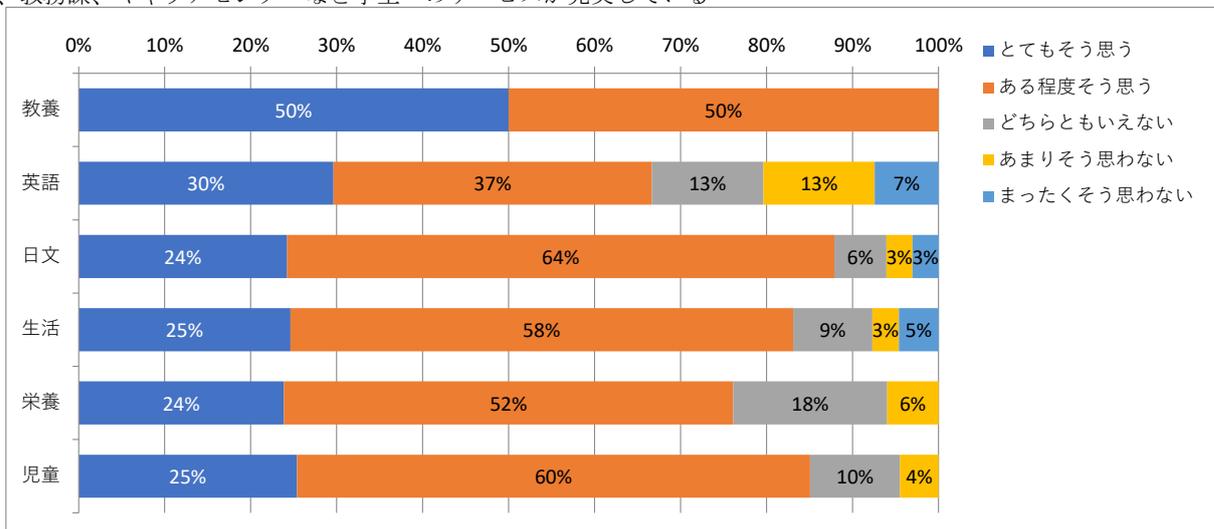


2021年度卒業生アンケート結果

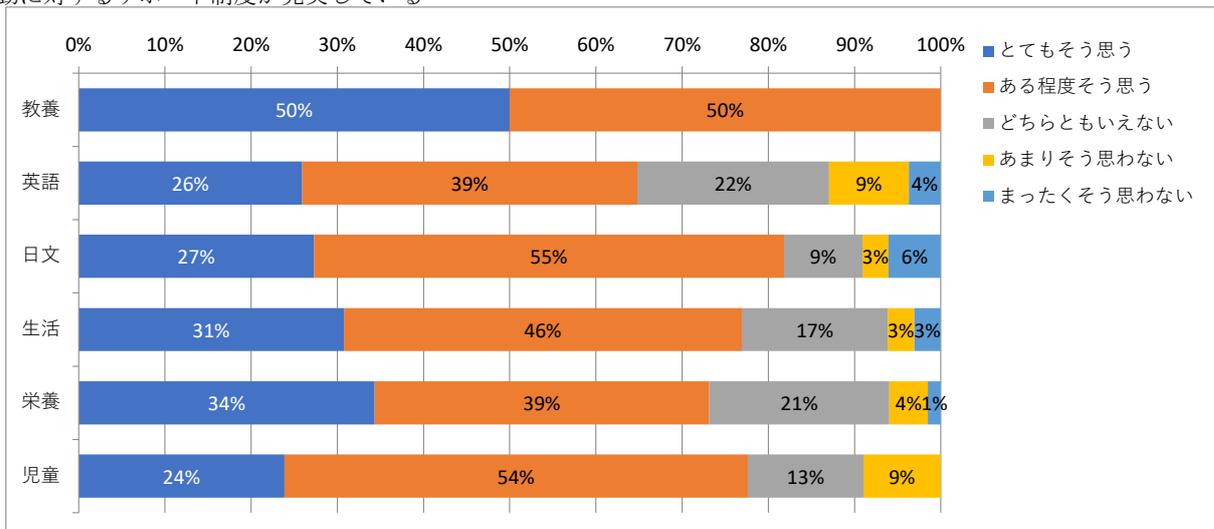
質問19 食堂やトイレなどの生活施設が充実している



質問20 学生課、教務課、キャリアセンターなど学生へのサービスが充実している

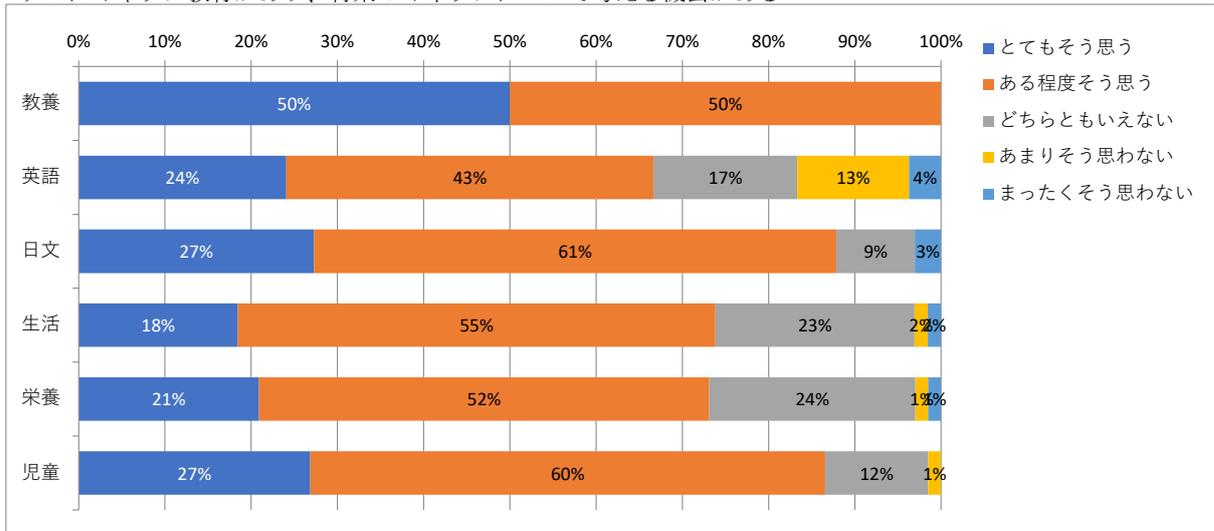


質問21 就職活動に対するサポート制度が充実している

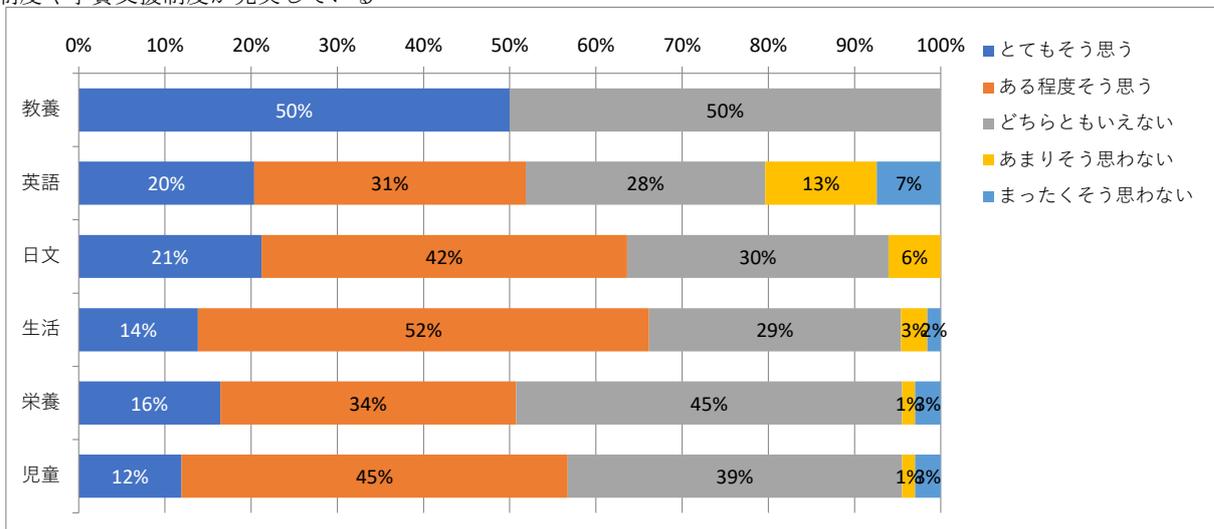


2021年度卒業生アンケート結果

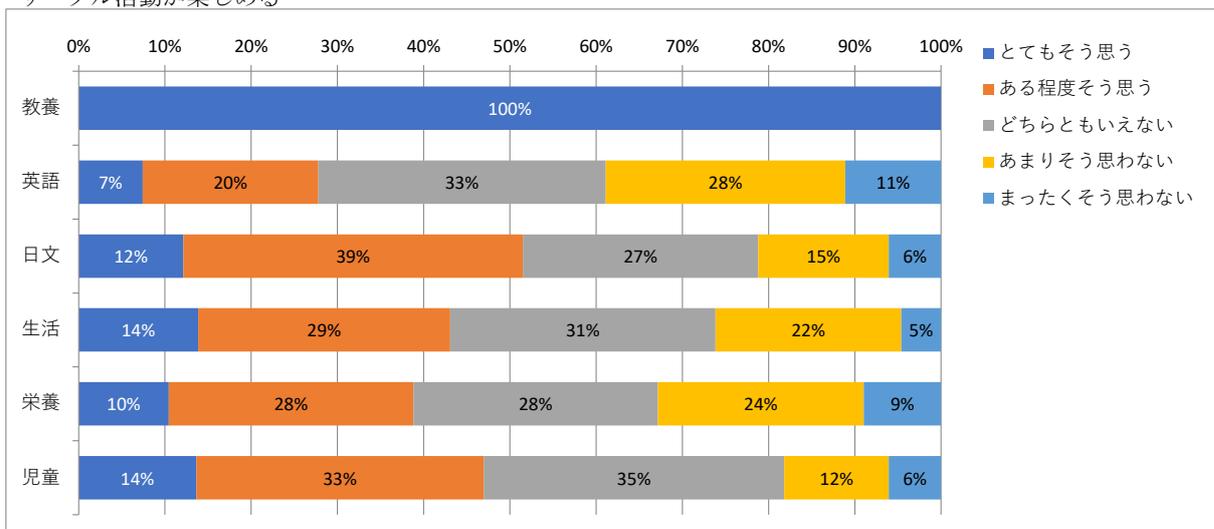
質問22 カリキュラムにキャリア教育があり、将来のキャリアについて考える機会がある



質問23 奨学金制度や学費支援制度が充実している

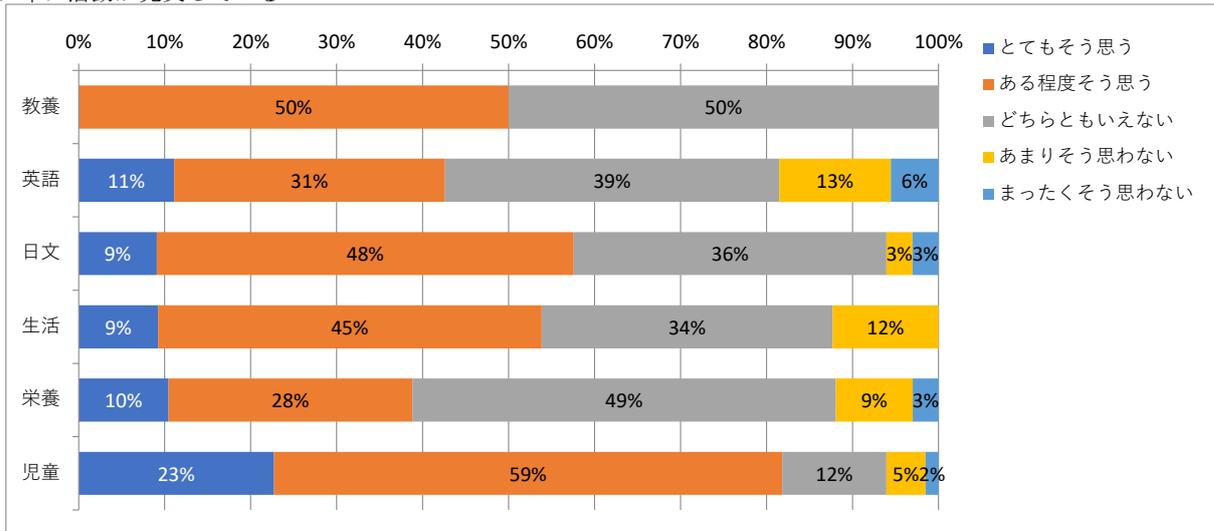


質問24 クラブ・サークル活動が楽しめる



2021年度卒業生アンケート結果

質問25 ボランティア活動が充実している



質問26 あやめ祭などの大学のイベントが充実している

